（様式⑦-1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立久世小学校
校長　天野　茂

中学校区におけるめざす子ども像
基本的生活習慣を身につけ，表現力豊かな児童・生徒

令和6年度　重点目標
対話を通じて，人の思いや考えを理解できる子どもを全教職員で育てる　～評価方法の工夫を通じて～

＜確かな学びの現状＞
本校の全体的な実態として，学習に課題のある児童が比較的多く，その課題とは，知識・技能面であったり，意欲面であったり，また，家庭面であったりと様々な要因があると思われる。その中でも「既習事項の定着が不十分（知識・技能面）で，授業に参加する気が起きない（意欲面）」児童が多いのではないかと考えられる。また，本校の課題として，自分の思いや考えを相手にうまく伝えることができず，トラブルに発展することがある。これらのことから，これまでの研究の成果でもある，子ども全員が意欲的に取り組むことができる授業づくりや，昨年度から取り組んでいる「対話」と「評価方法の工夫」は，今年度も引き続き行う。今年度は，学習指導の重点目標を「人の思いや考えを理解できる子の育成～『対話』と『評価方法の工夫』を通じて～」とし，「対話」や「評価の工夫」に焦点を当て，子ども一人ひとりが人の思いや考えを理解できる子の育成に取り組みたい。また，授業での学びを学校生活や日常生活で生かしたり，子どもが実際に学習してきたことを子ども自らが進んで活用することができる場を設定していけるようにしたい。

＜豊かな心・健やかな体の現状＞
昨年度のスポーツテストの結果を見ると，全体的に堺市の平均を上回っている種目もあるが，「20mシャトルラン」や「長座体前屈」等，平均を下回る種目も見受けられる。本校は児童数の割に運動場が狭く，休み時間だけでは満足に体を動かす時間を確保しにくい現状にある。今年度も体育授業で計画的にいろいろな種目に取り組めるように配慮するとともに，委員会活動を通して体力向上への取り組みや運動への動機づけを行っていきたい。
大規模校であり，生活環境の違いから多様な成長段階の児童がみられるが，その多様性を活かして「ちがいを認める」ことができるように生活のあらゆる場面で見逃すことなく指導を徹底していきたい。いじめ・不登校などに対して，個々の事案への対応だけでなく，各学級・学年による予防指導と，素早い組織的な指導を進めていきたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 （●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準 （評価のものさし）	評価方法	評価時期	進捗確認 （～11月）	達成状況(年度末) 自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	学習習慣の定着	豊かな語彙と確かな計算力を身につけることができる。（学力向上）	作文を書く際，語彙指導にも取り組む。朝の時間やすきま時間を活用して計算力向上の取り組みを行う。	【教員アンケート】 「言葉の力や計算の力をのばすための取り組みをしている。」という教員が，90%以上でA，60%以下でC。 【子どもアンケート】 「言葉の力や計算の力をのばす学習をしている。」という子どもが，90%以上でA，60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率92%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率84%➡B ・ドリルパークや，プリントなどで基礎学力向上の取り組みを行ったり，「言葉の宝箱」を活用して，語彙を増やす取り組みを行ったりしている。	B	**教員アンケート結果** 肯定率95%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率87%➡B ・基礎学力を向上するために，ドリルパークや国語・算数プリントに取り組んだ。その結果，新単元の学習でのつまずきを減らすことができた。 ・「言葉の宝箱」を活用して，語彙を増やすようにした。 少しずつではあるが，学習が定着してきている。	B	家の中でも同じ言葉を使うことが多い。語彙力が少ないように思える。男子よりも女子の方が言葉の数が多いようにも感じる。語彙力を高めていくことは必要である。
	校内研修の充実	「人の思いや考えを理解できる子ども」の育成に向けて，「対話」と「評価の工夫」を視点に授業研究を行う。（研修）	「対話」と「評価の工夫」を視点にして，研究授業，討議会や研修会議を行う。	【教員アンケート】 「授業において，対話を活性化させる取り組みを行ったり，子どもたちのモチベーションを上げるような評価を行ったりしている」という教員が，90%以上でA，60%以下でC。 【子どもアンケート】 「授業で，自分自身でよく考えたり，友だちと話し合ってよく考えたりしている」という子どもが，90%以上でA，60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率97%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率88%➡B ・「対話」と「評価」をテーマに研究授業及び討議会を行っている。また，研究内容の理解を深める研修や，進捗状況を確認するための研修を行っている。	A	**教員アンケート結果** 肯定率95%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率91%➡B ・「対話」と「評価の工夫」をテーマに研究授業・討議会を行った。先生の教え込み型でない授業が増えてきており，授業が活性化することが増えてきている。 ・価値づけの評価を意識することで，子どもたちの様々な頑張りを見取ることができる教員が増えてきた。その結果，前向きに学習に取り組む児童が増えてきている。	A	授業参観を見ても対話を重視した場面をよく目にする。また，認知症サポーター講座においても子どもたちの反応が良かった。6年生の総合学習の発表においても自分の言葉でしっかり発信出来ていた。
	情報ツールの活用	自分の思いや考えをICTを使って表現することができる（ICT）	児童の思いや考えを，発表ノートやパワーポイントなどを使って表現できるようにする。	【教員アンケート】 「児童がICT（タブレットなど）を使って，自分の思いや考えを表現できるように，指導をしている」という教員が，90%以上でA，60%以下でC。 【子どもアンケート】 「タブレットを使って自分の考えをあらわすことができる」という子どもが，90%以上でA，60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率63%➡B **子どもアンケート結果** 肯定率75%➡B ・ICTの研修を夏季研修で行い，授業で活用できるようにしている。	B	**教員アンケート結果** 肯定率59%➡C **子どもアンケート結果** 肯定率83%➡B ・ICT委員会を作り，子どもたちにメディアリテラシーを身につけさせたり，学期ごとにアンケートを行い，自身のICT活用能力を振り返らせたりした。 ・日々の見取り以外にも，上記のアンケートの結果も参考にして，クラスの子どもたちのICT活用能力を把握し，ICTを活用できるように指導した。	B	これからはICTの活用が重要視される。タブレットの持ち帰りを進めて欲しい。今はタブレットが重いというデメリットもあるが，軽量化されれば積極的に持ち帰りも進めて欲しい。
豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	いじめ・不登校の予防的対策に取り組む。（生指）	予防的対応を視点として，担任（生指も）が中心として子どもの変化を見取る。SSWとの連携，学校（授業）での居場所づくり・仲間づくり	【教員アンケート】 「日々の授業の中で，子どものわずかな変化を見逃さないようにし，対応すべき事態があれば，職員同士で情報を共有する」という教員が，90%以上でA，60%以下でC。 【子どもアンケート】 「学校に行くのは楽しい」という子どもが，90%以上でA，60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率98%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率83%➡B ・月に1回，職員全体で生徒指導報告会を行い，情報を共有し，必要に応じて対策委員会などを開いている。	A	**教員アンケート結果** 肯定率98%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率86%➡B ・SSWと連携して不登校児童の対応を協議したり，リソースルームを活用したりすることで，不登校の未然防止，子どもたちの居場所づくりを行った。 ・月に一度，生徒指導報告会を行ったり，必要に応じて会議を開くことで，いじめの未然防止や，トラブルへの迅速な対応を行った。	A	不登校問題を100%クリアすることが難しい。学校に来れなかった児童が1時間でも学校で過ごせるだけでも前に進んだと言える。家庭の問題もあるようにも思える。
		「あいさつ」「名札着用」ができる子を育て，「あいさつ・名札」の定着をはかる。（生指）	全職員が児童に日々声掛けし，児童に常に意識させる。	【教員アンケート】 「あいさつ・名札着用が大切と感じたり，進んで声掛けをする必要がある」という教員が，90%以上でA，60%以下でC。 【子どもアンケート】 「あいさつ・名札着用は大切だとわかり，毎日する必要がある」という子どもが，90%以上でA，60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率100%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率92%➡A ・朝礼や各クラスであいさつや名札着用の大切さについて指導を行った。	B	**教員アンケート結果** 肯定率100%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率94%➡A ・あいさつや名札・防止の着用などの声かけを教職員で意識統一して行った。 ・児童会であいさつ運動にも取り組んだ。あいさつができない児童が多いので，これからも継続してするだけでなく，基本的な生活習慣においては，家庭への呼びかけも行っていく必要がある。	B	1年生などでは，知らない人に関わらないように言われていることもあってか，挨拶が返ってこないことがある，しかし，学年が上がるにつれて挨拶が出来る子が増えてきているように思える。
		ありのままの自分や友だちのことを知る。（人権）	学校全体で自分のことを知るための「自分マップ」を行う。	【教員アンケート】 『「自分マップ」等の取り組みなど，児童が自分のことを知るための手だてを行っている。』という教員が90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 ・『わたしは、自分の長所や短所がわかる』という子どもが90%以上でA、60%以下でC。（変更なし）	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率82%➡B **子どもアンケート結果** 肯定率76%➡B ・全クラスで「自分マップ」の取り組みなどを通して，児童が自分のことを知るための手立てを行った。	B	**教員アンケート結果** 肯定率91%➡B **子どもアンケート結果** 肯定率82%➡B ・「自分マップ」や「ペアトーク」などお互いを知る活動を行った。また，授業を通して，子どもたちにポジティブな価値づけの声かけを行ったり，友だちに認めてもらえるような場面づくりをした。まだ，自分に対して否定的な子も見られるが，少しずつアンケートの肯定率は上がってきている。	B	家でもお友達のいい所（運動が出来る，給食当番をしっかりできている等）が話題になることがある。今後も人のいい所に目を向けていく取り組みを進めていって欲しい。
		自分や友だちを大切にし，助けあうことができる。（人権）	人とのつながりを意識した教育活動を展開する。	【教員アンケート】 『児童が困ったことやうまくいかないことを安心して伝えあえるような指導や支援を行っている。』という教員が90%以上でA、60%以下でC。 【子どもアンケート】 ・『わたしは、困ったことやうまくいかないことをクラスの人や友だちに相談できる』という子どもが90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率98%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率74%➡B ・全クラスで「つながりの輪」の取り組みなど，人とのつながりを意識する取り組みを行った。	B	**教員アンケート結果** 肯定率100%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率80%➡B ・昨年に引き続き，「つながりのわ」の取り組みを行った。まだ課題が見られるが，アンケートの肯定率は上がってきている。人権学習にさらに取り組み，安心できる学級，学校づくりに取り組んでいきたい。	B	そもそも相談が苦手だという子はいる。親から見れば「ただ言えば済むことなのに」と思えることでも言えないこともよくある。また，言うことに自信がない子も多いと思う。また，「相談」という言葉の意味がまだ分かっていないことも考えられる。
		支援が必要な児童に対して適切なサポートを行う。（支援）	サポート委員会、ケース会議を活用し、支援が必要な児童について対策を図る。	【教員アンケート】 「サポート委員会・ケース会議を活用し，支援が必要な児童の情報を共有しながら，対策を図っている。」の項目が90%以上でA、60%以下でC。	・教員アンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率98%➡A ・毎月サポート委員会，随時ケース会議を行い，支援が必要な児童について対策を図った。	A	**教員アンケート結果** 肯定率95%➡A ・サポート委員会、ケース会議を行い，支援が必要な児童の情報を共有しながら，対策を図り，支援が必要な児童に対して適切なサポートを行うことができた。 ・リソースルームを活用し，子どもたちの支援を行うことで，教室に入れる児童も出てきた。	A	子どもの支援の在り方を家庭で考えないと思っていただけに，サポート委員会など，学校で手厚く支援方法を考えてくれることは有難い。
	健康で丈夫な体作り	基本的生活習慣の大切さを理解させ，健康で丈夫な体作りに対する意識改善を図る（保健・食育）	「睡眠指導」「栄養指導」を行い，より良い生活習慣の定着と意識向上に取り組む。	【教員アンケート】 「基本的な生活習慣の大切さについて話すとともに，給食指導の中でバランス良く食べる大切さを伝えている。 」という教員が，90%以上でA，60%以下でC。 【子どもアンケート】 「自分の健康のために早寝早起きを心がけたり，給食を残さず食べようとしたりしている。」という子どもが，90%以上でA，60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率95%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率83%➡B ・授業などで，保健指導や食育指導を行っている。	A	**教員アンケート結果** 肯定率95%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率86%➡B ・食育の授業を行い，食事の栄養素やバランスなどの指導を通して，健康で丈夫な体作りに対する意識改善を図ることができた。さらに，ICTを活用した指導や，食育の研究授業にも取り組み生活習慣の改善を図った。	A	給食のメニューに関する情報などを掲示物などで確認しているらしい。給食では栄養のバランスのいいものを食べられるという意識を子どもは持っているように思う。家では食べないものも給食ではしっかり食べている。学校での指導のおかげだと思う。
		体育が楽しいと感じられる児童を増やす。（体育）	体育授業において，ほめる・認める・励ますなどの肯定的な言葉がけをするとともに，子ども同士が声を掛け合う時間を確保する。	【教員アンケート】 「体育において、取り組む態度や子ども同士の関わりを積極的に価値づけようとした」という教員が，90%以上でA，60%以下でC。 【子どもアンケート】 「体育の授業で、友だちや先生に褒めてもらったり、がんばりや成長を認めてもらったりした」という子どもが，90%以上でA，60%以下でC。	・教員アンケート ・子どもアンケート	6月下旬 11月上旬 2月上旬	**教員アンケート結果** 肯定率97%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率84%➡B ・体育の授業や体育参観の練習などで，褒められたり，がんばりや成長を認めてもらったりするような場面づくりを行った。	B	**教員アンケート結果** 肯定率91%➡A **子どもアンケート結果** 肯定率86%➡B ・体育の授業や体育参観の練習などで，褒められたり，がんばりや成長を認めてもらえたりするような場面づくりを行った。「できた！」と子どもが感じられる授業づくりをすることで，自分でも自身のがんばりを認められるようになると考えられる。自分の成長を感じながら，体育が楽しいと感じられるようにしていきたい。	B	技能重視の評価より，先生や子ども同士の言葉掛けや認め合いで運動好きの子どもを増やすことが大切であり，そのことで体力も向上するように思う。

校長より（年度末）
昨年度から継続して「対話」と「評価」という2つのキーワードを軸に様々な場面で教育活動を展開してきた。上記の10項目を中心に「人の思いや考えを理解できる子」を育てることが重点目標であった。各項目ごとの教員アンケートと子どもアンケートの結果から考察すると，肯定的評価に開きがある項目もある。来年度はこの開きの原因にも着目しながら教育活動を展開していく必要がある。
学校関係者評価者の方々からは，異学年交流の大切さについてご指摘いただいた。単に交流するだけではなく，相手意識を持った上での発信，受け止めが理解力・表現力の向上にも繋がっていくと考えている。今後もそのことを意識しながら様々な活動に取り組んでいきたい。

学校関係者評価者から（年度末）
異学年交流は大切だと思う。6年生から5年生に向けての総合学習の発表を見たが，6年生はしっかり発表出来ていたし，また発表を聴いている5年生も来年度に向けて自覚を持てると思う。大人からより子ども同士の方が真剣に聴けるとも言える。今後も異学年交流を通じて子どもたちの成長を促していって欲しい。